

# 平成 30 年度 星槎大学・大学院 学位記授与式

## 学長 告辞

本日ここに、関係者の皆様方のご臨席のもと、平成 30 年度星槎大学・大学院 学位記授与式を挙行するに当たり、学位取得者の皆様並びにご家族及びご関係者の皆様方に、心からお慶びを申し上げます。また、公私ともに大変ご多用の中、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様方、日頃のご指導、ご鞭撻に対し、心よりお礼を申し上げます。

本年度、星槎大学での学修を修了し、めでたく学位を取得された皆様は、共生科学部 81 名、大学院教育学研究科教育学専攻修士課程 45 名、教育実践研究科専門職学位課程 8 名、計 134 名でございます。このうち、昨年 9 月末に修了された方が 26 名、3 月に修了された方が 108 名です。その構成は、男性が 49 名、女性が 76 名、平均年齢は学部が 38.7 歳、教育学研究科が 50.5 歳、教育実践研究科が 39.5 歳、最高齢は 72 歳です。一方、在住都道府県は 26 都道府県にまたがっているほか、中国在住の方も 1 名いらっしゃいます。

さて、学位取得者の皆様、本日は誠におめでとうございます。その道のりは決して容易なものではなかったでしょう。本学の特長でもありますが、働きながら学ばれる方が多く、社会人としてご家庭やお仕事で多忙な中、学修に尽力され、晴れて本学の学位を取得されましたこと、誠に頭が下がります。ここで強調をさせていただきたいのは、大変な道のりであったからこそ、皆様の学びは社会的に一層の価値を持つのだということです。既に最先端で活躍されている皆様の活動を通じ、社会の変革に直結をする学びなのだということです。そして、それこそがまさに星槎がこの大学を創設した意図そのものであることをお伝え申し上げます。

国連が 2017 年に改訂した予測によれば、世界の人口は 2050 年には 98 億人に達すると見られますが、これは 100 年前の 1950 年の実に 4 倍の数になります。恐らくはここ 100 年で最も急激にその繁殖数を増加させている生物種であると思います。ちなみにこれからの人口増加は主にアフリカに起因するもので、かの大陸の重要性がますます高まってくるものと思われれます。

一方、アメリカ合衆国がシェールオイルの産出技術を発展させ、世界一の産油国となりました。これにより中東からアメリカ合衆国が距離を置いてまいります。また一つ大きな地政学上の変化が起きつつあります。

これらの変化の例を上げていけばその枚挙にはいとまがありません。昨日までの常識が通用しない時代、国境を超えてダイレクトにかつ、過敏に影響しあう時代、変化のスピードが一層速まる時代に、「私たち」はいかにあるべきでしょうか。

これからの世界は、私たちが今まで生きてきた世界とは全くと言って良いほど異なる様相を呈するものと思われまます。だからこそ、これからの社会において星槎の理念は重要度を増してくると考えます。

星槎の建学の精神は「社会に必要とされることを創造し、常に新たな道を切り開き、それを成し遂げる」です。これは星槎がこの世界に存在する意味を表します。今一度、この精神を噛み締めてみましょう。「社会に必要とされることを創造し」とは、今自分の見える世界において何が問題だろうか、どのような課題があるだろうかということに気付きを持ち、その課題がどうあれば良いのかを考えて、その対策を行動に移していこうということです。そして「常に新たな道を切り開き」は既存の仕組みや取り組みにとらわれずに本質を追いかけていこう、「それを成し遂げる」とはその社会的使命がある限り諦めずに様々な取り組みを継続していこう、継続は裏切らないという思いが込められています。このようにして星槎はやってまいりました。

これを皆さんの日常に置き換えるとどうなりますでしょうか。日々の生活の中にあるあなたの心に起きる揺らぎ、戸惑い、違和感、人との関わりの中で生まれてくる想いを大切にすることが重要だということです。そしてそこから生じる発見や感情を見過ごさずに受け止め、その困難や問題を仲間と一緒に理解し、共有し解決する。そのぶつかりや努力を通して共に成長することに他ならないと読み替えることができます。

本学の礎である「共生科学」は、星槎が初めて社会に提唱した「共に生きることを科学する」という、日常に依拠した実践科学です。我々は何のために学ぶのか。それは究極的には「よく生きるため」です。資格を取るために、学士を取得するためになど様々な目標はおありでしょう。し

かし、究極の目的は「学ぶことで誰かを笑顔にする」ということです。学問の専門性は大変に重要です。しかし時に専門性はその本質的な意義を我々から奪い去ることもあります。専門性に埋没し、本質的な意味を見失うということです。専門性とは、それを礎として世界の事象や課題にくさびを打ち込み、他分野との横断的關係性によって本質的な課題解決に至る。そのための叡智として初めて重要性を持つのです。創設者の宮澤保夫は、広く多岐にわたる分野を横断的に捉え直し、その関わり、重なりを深く考察することにより、より一層専門性を本質的に高めていくための高等教育の一形態だと星槎大学を表現しました。

共に生きるということは星槎の三つの約束を実践しようとするということでもあります。人を認める、人を排除しない、仲間を作る。なかなかできるものではありませんが、できないからこそ、常に心に止めておきたい理念であると思います。ハーバードビジネスレビューで読んだある調査によれば、チームの多様性に関する報告で、多様性があるほどそのチームは聡明になるという理由が述べられておりました。多様性あるチームはバイアスにとらわれずに事実を重視する。また最終的決断に至る前に議論が重ねられ事実をより深く処理する。そして至る結論はより革新的になるのだそうです。

自然界にその証左を探すに及ばず、多様性は強さです。本当の強さは自分と違う他者を認め、排除せずに、課題や目的を共に乗り越えようとする、得意不得意を補い合う仲間となることです。

来年、2020年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックです。星槎は日本で最初に民間主導型で事前キャンプの誘致を行いました。アフリカのエリトリアやアジアのブータン及びミャンマーが星槎大学の本校である箱根キャンパスと星槎レイクアリーナ箱根などを拠点に本大会前の練習を行います。私たちはこの活動を通じてオリパラの本質に関する問題提起をしたいのです。メダルの数争いに注目が集まる大国中心のオリパラの姿は実は世界標準ではありません。多くの国にとっては全く別の意味を持ちます。ですから私たちは「複数」の国のアスリートが共に生活し、それぞれの競技で活躍している様子を国籍の違いを超えて観戦し、その結果にかかわらず共に仲間として抱き合いながら喜び合ったり、悔しがったりする環境を作ろうと考えました。そうした「オリパラ」もあっても良いのではないかとこのことを社会に問いたいと思っています。

す。

またエリトリアもブータンも、まだパラリンピックには出たことがありません。ブータンでは障害者スポーツも存在していませんでした。しかし障害を持つ方でもスポーツをして良いのだ、スポーツを通じて誰かを笑顔にすることができるのだという概念が星槎の活動によってあの国の中で生まれたのです。これは革命的なことでもありました。こうしたことも星槎の活動なのだということはぜひ理解し、応援をしていただきたいと思います。

他人の気持ちを理解しようとするとなかなか難しいものです。自分の気持ちを誰か他人が理解してくれるとは想像しにくいでしょう。ですから星槎は他人の気持ちはわからないとしても、もし自分があの立場であったらどう思うだろうかということを実践しようと唱えます。Sympathy としての共感よりも、Empathy としての共感です。そしてそれには客観性をもって判断し、行動に移す「強さ」が必要です。その行動を起こしてまいりましょう。その行動の一つ一つは小さくとも、その小さな明かりが街のあちこちで点り始めた時には、きっと大きなうねりを生み出すことができます。そして実はそうした着実な変化のあり方こそが、いまの世の中には必要です。誤解を恐れずに言えば、今の時代には「星槎」が必要なのです。組織とか、大学のことを言っているわけではありません。創設者の宮澤保夫が星槎に込めた想いが、困難な場面においてこそ他者の為に行動することを厭わない、そうした心持ちが、いまこそ私たちの中に必要です。そしてそれは大きな声で発せられるというより、一人ひとりの小さな行動の中に根付き、社会にしっかりと、しっかりと染み込んでいくものであってほしいと考えます。

つまり、星槎とは社会を変える運動です。全ての学びは社会を変える為にあります。もっともっと笑顔が溢れるように、もっともっと生きるの意味が深められるように、星槎の学びを通じて行動し、社会を変えていく。この当たり前のことを、当たり前にやっていく、そんな仲間をいたいと思います。星槎は皆さん一人ひとりが参加して形成される集合体です。星槎で学ぶ皆さんが力です。

星槎を世界の共通語にしようといった職員がいます。キモノ、スシ、カラオケなど世界語になった日本語はたくさんあります。同じように星槎を日常の言葉として世界に発信していこうというアイデアです。素晴らしい発想だと思います。久しぶりに街で顔を合わせて「どう、星槎している？」と声を掛け合うわけです。1972年の創設以来、何らかの形で星槎で学んだ方たちの数は約54万人です。その私たちが星槎で繋がる。これも素晴らしいことではありませんか。私たち全員が社会を変えていく仲間です。これは力です。

本学で学修し、学位を取得された皆様には、是非、実践の中で星槎の学びを生かして頂きたいと存じます。それぞれのやり方でできる範囲で構いませんから、倦まず弛まずに共に生きることを実践的に科学し続けていただきたいと希望します。みなさん一人ひとりが掛け替えのない、大切な存在です。必ず誰かの笑顔につながっている。笑顔の連鎖の起点になっているということを忘れないでください。

星槎も学び続けます。ですから皆さんも学び続けて頂きたい、そして共に星槎していきましょう、社会を変える力となりましょう。そのことを改めて強調させていただき、私の学長告辞とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願いいたします。

平成31年3月16日

星槎大学 学長

井上 一